11　「おいでまい」のブランド力向上と安定生産に向けて！

■　中讃地域おいでまい栽培者　■

中讃農業改良普及センター　（大矢玲二郎　山田浩三　髙八弘　片桐弘樹　藤井貞吉
吉田一史　長尾昌人　三木洋　○藤田大輝　松本智也）

●対象の概要

「おいでまい」は、高温登熟性に優れ、高い１等米比率を誇る県オリジナル水稲品種で、平成25年産では日本穀物検定協会の「米の食味ランキング」で中四国初となる「特Ａ」ランクを獲得し、続いて平成26年産についても「特Ａ」を獲得した。

中讃地域では、綾川町が平成25年に重点推進地域に指定され、一般栽培が開始された。平成27年からは丸亀市飯南・岡田地域（丸亀市飯山町・綾歌町）が新たに作付拡大地域として指定され、認定栽培者と合わせて約989ｈａで作付された。

平成27年産は、２年連続の「特Ａ」効果や販売ＰＲなどで一時品薄状態となるなど、県内を中心に需要が増大しており、今後も高い品質を維持しつつさらなる生産拡大が求められている。

●課題を取り上げた理由

中讃地域の「おいでまい」は、従来の普通期水稲品種「ヒノヒカリ」よりはるかに高い１等米比率を保っている（表－１）。しかし、前年は天候不順(日照不足、登熟期の低温など)により１等米比率が低下している。このような中、「おいでまい」の需要増に伴う生産拡大を図るためには、適正な栽培管理と生産者の一層の栽培意欲の醸成が課題となっている。

また、本品種は「ヒノヒカリ」などと比較して「いもち病」などに弱く、これが妨げとなって栽培をためらう生産者も少なくないことから、生産拡大のためには「いもち病」対策などを含む栽培技術の確立・普及が急務となっている。

表－１　中讃管内「おいでまい」の１等米比率と作付面積の推移

品種		24年産	25年産	26年産
おいでまい		97.4%	94.3%	74.2%
	作付面積	15.0ha	584.2ha	629.5ha
（参考）		4.8%	7.7%	23.9%

●普及活動の経過

１　作付拡大地域での推進活動

平成27年から作付拡大地域として新たに栽培が開始された丸亀市飯南・岡田地域の一般栽培者に対して、適正管理などの栽培指導を行うとともにＪＡ香川県飯南・岡田カントリーエレベータ等との連携により荷受計画の検討を行った。

２　栽培講習会の開催と栽培に関する情報提供

４～５月にかけて、管内７か所で計12回にわたり栽培講習会を開催し、県が作成した「『おいでまい』栽培マニュアル」に示された栽培基準に加えて、それぞれの地域環境に応じた適正な栽培管理を呼びかけた。さらに、県「おいでまい委員会」と連携してパンフレットを作成・配布し、生育時期に応じた適正防除等を周知した。

地域ごとの栽培講習会

３「おいでまい」品質・食味コンクール

「おいでまい」品質・食味コンクールは、平成24年に立ち上げた「中讃地域『おいでまい』生産者組合」主催の行事である。

平成27年産の出品者は、県「おいでまい委員会」認定の「おいでまいマイスター」を含む計44名（農事組合法人含む、出品点数46）であった。

出品されたほ場には「おいでまい栽培基準田」の看板を設置し、肥培管理や防除体系などの情報を近隣の生産者が確認できるようにした。また、ＪＡと連携して葉色調査や分析サンプルの坪刈

りを行い、生産者ごとに品質・食味を判定して順位付けをし、上位の生産者には表彰状と副賞（管内農産・加工品）を贈呈した。

基準田の看板

品質・食味コンクールの表彰式

4「おいでまい」栽培者研修会

品質・食味コンクールに合わせて研修会を開催し、当年産「おいでまい」の概要と次年に向けての課題を周知した。また、「ヒノヒカリ」などの他品種と食べ比べることで「おいでまい」のおいしさを再認識してもらい、次年産以降の栽培意欲の醸成を図った。

他品種と食べ比べる参加者

5 極良食味米展示ほの設置

より高品質（外観品質１等、整粒歩合85％以上、玄米タンパク含量6.5％以下（水分14.5％補正後））な「おいでまい」の生産技術を確立するため、穂肥診断による穂肥量の調節や土壌改良資材による食味向上効果を検討する展示ほを管内４か所に設置した。

6 中山間地での「いもち病」対策実証ほの設置

「おいでまい」の広範囲での普及には「いもち病」対策が欠かせないため、綾川町、綾歌町、まんのう町に実証ほを設置し、「いもち病」常発地帯における防除対策を検討した。

7 採種ほの設置と栽培支援

「おいでまい」の作付拡大に伴い、次年産の需要量に応じた種子量の確保が必要となった。そこで、中讃地域では平成27年から丸亀市で新たに採種ほが設置され、約13haで優良な種子生産に向けて適期収穫等の栽培管理の指導を行った。

●普及活動の成果

1 1等米比率の維持

平成27年産「おいでまい」は、丸亀市飯南・岡田地域での一般栽培開始などにより作付面積が約360ha増加したことと、日照不足や登熟期の低温の影響で１等米比率が低下することが懸念された。しかし、地域別の講習会や現地巡回指導などにより１等米比率は72.7％（平成28年２月現在）と、前年とほぼ同等の数値を維持できた。

2 高品質米生産の意識づけとスコア値の向上

「おいでまい」品質・食味コンクールおよび栽培研修会では、出品されたほ場のお米の品質・食味データを生産者にフィードバックして生産者自身の栽培管理を振り返ってもらうと同時に、次年産以降の改善策を検討した。このような取組みの結果、栽培基準田におけるスコア値は年々向上しており、タンパク含量も目標値の6.5％をほぼクリアしている（表－２）。

表－２ 栽培基準田の品質・食味データの平均値

実施年	25年産	26年産	27年産
サンプル数	31	48	46
スコア値（点）	70.9	72.3	74.4
タンパク含量※	6.3	6.6	6.2

※水分14.5％補正後

3 綾川町における栽培しおりの見直し

中山間地が多い綾川町では、「いもち病」の発生が大きな問題となった。そこで、ＪＡ香川県綾坂地区営農センターなど関係機関と連携して施肥設計例や本田防除を検討した結果、平成28年産の綾坂版「おいでまい栽培しおり」では、箱処理剤を「いもち病」に対し、より長期残効性のあるものに変更し、それに伴い本田必須防除の体系を見直した。

●今後の普及活動の課題

今後も、実需者が求める高品質な「おいでまい」の生産拡大に向け、地域に応じた栽培管理指導を徹底するための現地巡回などを実施する必要がある。

また、近年は日照不足や登熟期の低温など「おいでまい」にとって厳しい気象条件が続いている。そのため、品質・収量が年次変動によって左右されにくい栽培技術を確立・周知していくとともに、いもち病の防除体系についてもより良いものを検討し、「おいでまい」のブランド力向上と作付拡大を支援する。